日本工業大学
駒場高等学校卓球部
発行責任者：平　　雅行
平成２８年８月２９日発行

卓球部通信「照一隅（しょういちぐう）」No.239

・第 70 回 第 8 支部卓球選手権大会の結果

男子シングルス 優勝 大場 正明（2P ）第 3 位 中山 純平（2E）

８月１７日（水）、世田谷区立総合運動場体育館で、第７０回第８支部卓球選手権大会（シングルス）が行われました。

日駒からは男子１８名が出場し、なんと１６名が初戦を突破しました。１年生は５名中４名が勝つことができました。また、高校生になってから卓球を始めた髙田(2P)が、８支部大会のシングルスで初勝利しました。日駒生は順調に勝ち上がり、参加１４４名中、ベスト１６に５名進出しました。第２シードの大場、第３シードの中山、最近力をつけてきた矢島(2E)、１年生の武井(1T)と中田(1I)の５名です。５回戦では大場が駒場東邦の選手に、中山が矢島に勝ちベスト８進出。武井は第一シードの駒場東邦の選手に２－３、中田は第５シードの大東学園の選手に２－３、２人ともあと一歩の試合でした。

準々決勝は、大場が都市大付属の選手に、中山が駒場東邦の選手に勝ち２人がベスト４に進出しました。準決勝は「大場 vs 中山」の日駒対決となりました。大場が終始リードして３－１勝利し初の決勝戦に進出しました。決勝戦の相手は都市大付属のエースです。１セット目を大場、２セット目を都市大付属の選手、３セット目を大場、４セット目を都市大付属の選手が取り２－２となり５セット目が勝負となりました。５セット目は前半から大場が優位に進めて１１対　で取り、見事初優勝を決めました。私が顧問になって(H10)から８支部シングルスを制覇したのは、島田 哲也(H12 冬)、柳生 和義(H14 冬・夏)、島田 雄也(H18 夏)、菅井 慶輝(H19 夏)、大高 秀利(H23 夏・H25 夏)、小野口 翔真(H26 冬)、中村 愼之介(H27 冬)、岩切 友摩(H27 夏)に次いで９人目です。おめでとう。

今年の夏休みは改修工事のためアリーナが使用できずに苦労しましたが、お世話になった他校の先生や生徒に少しは恩返しができたかと思います。しかし、２９日には団体戦とダブルスがあります。昨年度は団体戦もダブルスも優勝できませんでしたので、今年は全ての種目で日駒が優勝できるように全力で臨みましょう。

そして、多くの保護者・ＯＢの方々の応援もありました。ありがとうございました。

中　田　6,10,-9,-7,10　　山　下

日駒チーム　集合写真

・平成２８年度後期の大会予定（９月～３月）

９月	３日（土）	１３：００～	全日本ジュニア予選	多摩工業高校
	１０日（土）	１３：００～	全日本ジュニア予選	多摩工業高校
	１１日（日）	９：００～	全日本ジュニア予選	明大明治高校、白鴎高校
	１８日（日）	９：００～	全日本ジュニア予選	多摩工業高校
	１９日（祝）	９：００～	全日本ジュニア予選	明大明治高校
	２２日（祝）	９：００～	全日本ジュニア予選決勝大会	多摩工業高校
１０月	８日（土）	１３：００～	新人大会ダブルス	八王子市富士森体育館、白鴎高校
	９日（日）	９：００～	新人大会ダブルス	明大明治高校
	１０日（祝）	９：００～	新人大会ダブルス決勝大会	多摩工業高校
	２９日（土）	１３：００～	新人大会シングルス	八王子市富士森体育館、日野ふれあいホール
	３０日（日）	９；００～	新人大会シングルス	明大明治高校
１１月	３日（祝）	９：００～	新人大会シングルス	白鴎高校
	５日（土）	１３：００～	新人大会シングルス	八王子市富士森体育館
	６日（日）	９：００～	新人大会シングルス決勝大会	明大明治高校
	１３日（日）	９：００～	新人大会学校対抗	多摩工業高校、白鴎高校
	１９日（土）	１３：００～	新人大会学校対抗	八王子市富士森体育館
	２０日（日）	９：００～	新人大会学校対抗決勝大会	多摩工業高校
１２月２５日（日）～２７日（火）			関東新人卓球大会	神奈川県相模原市
１月	６日（金）	９：００～	第３６回　第８支部新人卓球大会	世田谷区立総合運動場体育館

・私が読んだ本から「今、ここを生き抜く」－明治大学野球部監督・島岡 吉郎の遺言（大溪 弘文さん）より

人間・島岡吉郎にとりつかれた！？

島岡吉郎、通称“御大（おんたい）”は昭和二十七（１９５２）年から亡くなる平成元（１９８９）年まで、明大野球部監督として三七年の永きにわたり学生を指導しておられます。その学生野球への貢献により平成十年には、野球殿堂入りを果たしております。

監督就任直後の昭和三十年前後の明治は、秋山・土井バッテリーや近藤（和彦）、沖山、岩岡、黒木などの名選手を擁する島岡御大の第一期黄金時代を迎えます。当時の東京六大学の人気はすさまじく週末の神宮の杜はヒトで溢れておりました。人気だけでなく実力も他の大学リーグの中で群を抜き・・・

究極の「かたち」 ― 猛練習

御大は物事の形を重んじ、事を起こすのに先ず形から入ります。ハシの上げ下ろしから挨拶の仕方、ユニホームや布団のたたみ方は言うに及ばず、トイレ掃除、風呂の焚き方まで事細かく学生に指導します。しかもそれらの作業は「上級生が率先して当り下級生に範を垂れる」ことが明大野球部の鉄則です。この指導は練習にも開始時刻の厳守から後片付けまで徹底して貫かれます。しかし、何と言っても御大が重んじた“形”というのは、練習につぐ練習 ―「猛練習そのもの」こそが究極の「かたち」だったように私は観じます。・・・

グランドの神様に謝れ！？ ― 命がけで当れ！誠意を尽くせ！ 魂を込めろ！

全員、グランドに出て来い！－昭和四十二年九月九日、深夜の明大野球部合宿に激震が走った。野太い、しかし聞き慣れた声に野球部全員が一斉に飛び起きた。声の主が島岡御大であることは歴然。部屋の窓を空けると真っ暗なグランドの中央、マウンドの手前でパンツ姿の御大が私の目に飛び込んできた。それぞれ窓際に集まって呆気に取られる子どもたち。チーフマネージャーの豊田洋からキャプテン高田繁に、御大の指示内容が伝えられる。若いくせにドスの効いた星野仙一の声が、合宿を突きぬけた。

「みんな、パンツ一丁でグランドに集まれ！」

数分を待たずに野球部員五八名のパンツ姿が、ぞろぞろとグランド中央に集まる。異様な光景である。

九月とはいえ、小雨混じりの深夜－裸同然の姿ではかなり寒い。集まった選手の前に御大の怒声が夜空に響きわたる。

「グランドの神様に土下座して謝れ！」

言われるまま、御大を先頭に全員がバック・スクリーン方向を向いて座り込み、地べたに頭と顔を擦りつける。私も御大の後ろに回り込んで雨上がりの泥んこの土に顔をうずめた。傍から見れば、これは正気の沙汰ではない。どう見ても、いい歳をした大人のすることではない、しかし、私なかりでなく多分、高田繁も星野仙一も御大のこの気違いじみた行動の真意を察知していたに違いない。

秋の東京六大学リーグ戦 ― この日、無気力野球で早稲田に大敗を喫した。星野は自らのエラーで加点され、四回でＫＯ。合宿へ帰る電車のなかで御大は一言も発しない。全員が無言のまま、調布の合宿に到着した。御大は、自室に閉じこもったまま出てこない。

日頃、御大の口癖は「技術、体力そして人間の心を磨いてくれるのはグラウンドである。このグラウンドを通じて人間力を付けるのだ！グランドがお前ら若者を成長させてくれる。だから、いつもグランドの神様に感謝の念を持て！。」

グランド外では優しい御大も「人間教育の場」であるグランドでは一切妥協を許さない。この日は敗戦の結果をではなく、無気力なプレーを御大は許すことが出来なかったのだ。

星野をはじめ全員が大声で「済みませんでした。申し訳ありません」― グランドに頭を擦りつけ、誤り続ける。雨の中、暗闇のなかで延々二時間これが続いた。グランドに散らばった半裸の六０名ほどが叫びながら神に祈り続ける光景は、まるで宗教行事と見まごうばかりの異様さである。勿論、その中央にはズングリ六十歳の島岡御大のパンツ姿があった。

「命がけで当れ！誠意を尽くせ！魂を込めろ！」

と書いてあります。この文章に出てくる高田繁さんは元プロ野球読売ジャイアンツの選手であり、日本ハム、ヤクルトの監督も務めました。また、星野仙一さんは元プロ野球中日ドラゴンズの選手であり、中日、阪神、楽天の監督を務め、2013年には日本シリーズで読売ジャイアンツを4勝3敗で倒し、日本一の監督になりました。この文章を読んで感じるものが必ずあるはずです。